

小学校音楽科の鑑賞領域における音楽的な見方・考え方

第4学年における「白鳥」の鑑賞について考える

An aesthetical and musical analysis of Elementary school music.
Focusing on the “Le cygnet” performed in the 4th grade.

飯泉正人 (牛久市立向台小学校)
Masato Iizumi (Mukoudai Elementary School of Ushiku City)
(キーワード)

音楽を形づくっている要素、見方・考え方、身体表現、Scratch

1. 研究の背景

今年度、小学校において新学習指導要領が全面実施となった。「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」を目指した今回の改訂改定には、各教科としての『見方・考え方』を働かせることが重要であると解説されている。音楽科にとっては「音楽的な見方・考え方」である。学習指導要領解説は、「音楽的な見方・考え方とは『音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連図けること』であると考えられる。」と解説している。本研究は、このことを鑑賞領域の学習で実現するためのものである。

2. 研究の目標

第4学年の「白鳥」の鑑賞において、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージと関連付けるために有効な指導の方法を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) イメージと旋律とを関連付ける

「白鳥」はチェロの演奏する旋律、ピアノの右手が演奏する旋律、左手が演奏する旋律がある。自分のイメージのもととなっているものは、3つのうちのどの旋律で、その旋律がどのようなであったかということに着目させ

る。

音声のみで3つを聴き取ることは困難であるので、身体表現(身体反応)の手法を取り入れ、それぞれの旋律を手で動いてみることで掴ませる。

(2) テンポとイメージとを関連付ける

今回の実践には、新指導要領で導入となったプログラミング教育の手法を取り入れる。プログラミング言語のScratchを利用する。「白鳥」のテンポのプログラミングを5段階で変えることで、曲のイメージがどう変わるのかに着目する。児童は、4人グループに1台ずつのタブレットを、ヘッドフォンとスプレッターを接続することで共有し、協働的に学習を進める。児童は、5つのテンポで演奏された「白鳥」を聴き、それぞれからイメージされるものを仲間と伝え合いながら、「白鳥」がこのテンポで演奏される意味について考える。

(3) 楽器とイメージとを関連付ける

「白鳥」のチェロが演奏する旋律について、楽器選択のプログラミングをチェロ、ホルン、バイオリン、フルート、ピアノに変えることで曲のイメージがどう変わるのかに着目する。児童は、5つの楽器で演奏される「白鳥」を聴き、それぞれからイメージされるものを仲間と伝え合いながら、「白鳥」がチェロで演奏される意味について考える。結果と考察は口頭で発表する。